

「第4次吹田市地域福祉計画」
進捗管理シート（令和5年度末時点）

■対象室課一覧

シートNO.	施策	対象室課
1	自治会加入率	市民自治推進室
2	小地域ネットワーク活動の延べ参加者数	福祉総務室
3	高齢者生きがい活動センターの利用者数	高齢福祉室
4	障がい者サービスボランティア協力者数	中央図書館
5	青少年指導者講習会の参加者数	青少年室
6	認知症サポーターの養成者数（累計）	高齢福祉室
7	障がい者週間記念事業の啓発行事への参加者数	障がい福祉室
8	成年後見制度の認知度	福祉総務室
9	日常生活自立支援事業利用者数	福祉総務室
10	地域包括支援センターの認知度	高齢福祉室
11	吹田市社会福祉協議会の認知度	福祉総務室
12	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の（延べ）相談対応回数	福祉総務室
13	自主防災組織の結成数（連合自治会単位・単一自治会単位）	危機管理室
14	災害時要援護者支援に関する協定締結地区数	福祉総務室
15	民生委員・児童委員の人数	福祉総務室
16	単位高齢クラブ数	高齢福祉室
17	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度	福祉総務室
18	ふれあい交流サロン設置数	高齢福祉室
19	こどもプラザ事業実施回数	青少年室
20	貸館の延べ使用件数（総合福祉会館）	総合福祉会館
21	地域密着型サービスの整備箇所数	高齢福祉室
22	障がい福祉サービスの利用者数等	障がい福祉室
23	留守家庭児童育成室入室児童数	放課後子ども育成室
24	生活習慣改善するつもりはない人の割合	健康まちづくり室
25	各中学校ブロックにスクールソーシャルワーカーを配置した時間数	学校教育室
26	移動経路のバリアフリー化率	道路室
27	JOBナビすいたの利用者数	地域経済振興室
28	「障がい者就職応援フェアInすいた」への参加者数	地域経済振興室

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】 市民自治推進室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
自治会加入率	50.1%	48.4%	46.0%	44.8%	43.4%	60% (2028年度)

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ○市HPで自治会加入の申込みを受付。 ○市HP上に各自治会の活動内容等を掲載できるスペースを確保し、情報発信の支援を行った。 ○自治会加入についてのちらしを令和3年度にリニューアルし、転入者へ配布。また、保育施設や商業施設に配架。ちらしには、市HP上の加入申込フォームにアクセスするQRコードを掲載。 ○自治会加入促進等活動補助金を令和2年度より創設。令和5年度末までの交付実績は19団体で、年々交付実績は増加している。 ○自治会活動支援の一環として、自治会活動に役立つSNS入門講座を開催（令和3年度、4年度に実施）
令和6年度以降の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度末までの取組を継続する。 ○自治会加入促進等活動補助金交付要領改正等、各自治会の会員数拡大に向けての取組みを支援する。 ○吹田市自治会活動補助金の交付額を増額し、自治会活動の財政的支援を強化する。 ○自治会加入についてのちらしに、市HP上の自治会検索ページにアクセスするQRコードを掲載する。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	C	C	自治会加入率が減少している要因は、ライフスタイルの多様化により自治会以外の地域コミュニティが多く存在していることや自治会活動に関心の薄い市民が増えていることが考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の影響で自治会活動を円滑に行うことが困難であったことも自治会加入率減少の要因となっている。

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
小地域ネットワーク活動の 延べ参加者数	84,162人	13,737人	26,194人	46,503人	64,047人	86,000人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、コロナ禍前の活動方法に戻す福祉委員会が増えた。</p> <p>○ふれあい昼食会も、コロナ禍前の実施方法に戻しつつ、コロナ禍で高齢者の安否確認や外出機会確保を目的とした「ふれあい外出配食」を継続して実施する地区もあるなど、各地区で開催方法等を工夫して取り組まれた。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○コロナ禍前の活動方法に戻すだけでなく、コロナ禍後の生活様式を見据え、活動方法を検討する福祉委員会が増えることが予想される。</p> <p>○吹田市社協に配置されているCSW中心に活動の充実化、活性化を支援する予定。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	コロナ禍前の活動方法に戻すだけでなく、「ふれあい外出配食」などコロナ禍での活動方法を継続して実施し、活動に幅を持たせることで住民同士のつながり作りに取り組んだ。また吹田市社協のCSWも各地区の活動状況を情報提供するなど小地域ネットワーク活動推進を支援した。

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向1：お互いの顔の見える関係づくり

具体的施策	1.地域住民間の交流促進【重点施策】
	2.地域活動・ボランティア活動の促進【重点施策】

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
高齢者生きがい活動センターの利用者数	50,696人	18,472人	27,555人	46,566人	45,673人	53,410人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○新型コロナウイルス感染症が急速に拡大していた令和2～3年度では、感染防止対策として一時的に休館したが、令和4年度以降については、感染症拡大防止対策を講じながら、開館を継続した。年間延利用者数が昨年度に比べ893人減、1日の平均利用者数が2.5人減とやや減少したものの、コロナ禍前の令和元年度と同程度まで回復している。</p> <p>○会議室や交流スペースの提供の他、健康・教養・世代間交流に資するさまざまな講座を実施しており、新規利用者の獲得や施設利用の定着に繋げている。講座メニューについては毎年見直しを図り、高齢者のニーズに素早く対応することで、利用促進、施設の活性化に努めている。その結果、講座等事業の参加者数について、昨年度比で主催事業は103人増、自主事業は108人増となり、特に自主事業については、参加者が過去5年間で最多を誇る結果となった。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○今後も引き続き、講座内容や広報の見直しなど安心して生きがいづくりの活動をしていただけるよう改善・工夫を重ねていくことで、利用者数の回復に努めていく。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	B	利用者のニーズを的確に捉え、サービスや講座の内容を充実させたことで、年間利用者数の回復や講座等事業の参加者数の増加に繋がったため。

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向2：福祉活動の担い手づくり

具体的施策	1.人権・福祉に対する意識の向上
	2.地域福祉を担う人材の育成・確保

【所管】 中央図書館

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
障がい者サービス ボランティア協力者数	215人	190人	188人	186人	189人	250人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座 11回 延べ108名参加 音訳・対面朗読ボランティア養成中級講座 10回 延べ96名参加 デイジー図書製作講座 6回 延べ32名参加 点訳ボランティア養成講座(基礎コース) 10回 延べ51名参加 音訳・対面朗読ボランティア養成講座修了者 10名
令和6年度以降の取組予定	令和6年度は下記4講座を実施予定。 音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座 10回 音訳・対面朗読ボランティア養成中級講座 11回 デイジー図書製作講座 6回 点訳ボランティア養成講座(実践コース) 10回

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	令和5年度については、ボランティア養成講座は、予定通り実施できた。ボランティアの高齢化に伴い、今後もボランティアの減員が予想されるため、数値目標の達成は、厳しい状況にある。

基本目標1：公民協働による地域福祉活動の推進

施策の方向2：福祉活動の担い手づくり

具体的施策	1.人権・福祉に対する意識の向上
	2.地域福祉を担う人材の育成・確保

【所管】 青少年室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
青少年指導者講習会の参加者数	244人	実績なし	61人	203人	161人	350人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○子供たちの見守りなど、これから地域のボランティアを目指す方々に基礎的な知識を身につけていただくため、また既にボランティアとして活動されている方々のスキルアップのために、指導者講習会を開催し、ボランティアの養成等に努めた。</p> <p>○令和5年度は、受講者の希望に応えた講座を開催することとし、4回開催とした。また、他会場でのスクリーン投影や自宅でのZoom等による視聴など、気軽に参加できるように開催方法を工夫した。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○地域の方が安心して事業を企画・運営できるよう、「安全管理（熱中症予防等）」・「今を生きる児童との関わり方」・「青少年の特殊詐欺被害防止」など、現代の子供・若者に関する社会課題をテーマにした講習会や「太陽の広場」見守りボランティア意見交換会などを開催していく。</p> <p>○より多くの方が参加できるよう、ライブ配信だけではなくアーカイブ配信を行うなど、引き続き開催方法や開催日時を検討していく。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	子供たちのための地域活動が安心・安全に開催できるよう、指導者やボランティアの養成は必要である。より多くの方に気軽に参加していただけるよう、今年度からオンライン開催や複数の会場での開催などに取り組んでおり、引き続き周知に努めていく。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
認知症サポーターの養成者数（累計）	24,390人	26,906人	27,434人	28,386人	29,464人	37,466人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ○「認知症サポーター養成講座」を、市民、大学生、小学生、市職員、医療従事者や民間企業の従事者向けに参集やオンライン形式で開催した。平日昼間以外にも、土日や夜間の時間帯も設け幅広い年齢層に受講してもらえた。 ○地域ネットワーク構築に向けて認知症サポーターステップアップ講座を開催した。令和5年度に認知症の人や家族のニーズを認知症サポーターや多職種の支援者となつなぐ仕組みである「チームオレンジ」が1か所立ち上がった。 ○9月のアルツハイマー月間において、ピエラ健都にてチラシの配架や脳体力測定による普及啓発や、吹田オレンジフェアとしてメイシアターにて声かけ見守り訓練等を実施した。 ○認知症地域サポートの実施が無かったため、運営マニュアルを改訂した。
令和6年度以降の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> ○「認知症サポーター養成講座」や認知症地域サポートの周知を積極的に行う。 ○認知症地域推進員、地域包括支援センター等と連携し、「チームオレンジ」の立ち上げの拡大を目指す。 ○認知症サポーターステップアップ講座やキャラバン・メイト全体研修を開催し、認知症支援に関わる方等のモチベーション向上、スキルアップを図る。 ○9月のアルツハイマー月間において認知症に関する普及啓発等を行う。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	C	B	認知症地域サポートの実施は無かったが、チームオレンジが1か所立ち上がった。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 障がい福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
障がい者週間記念事業の啓発行事への参加者数	974人	320人	320人	1,024人	1,352人	1,200人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○令和5年度障がい者週間記念事業は、下記の3つのイベントを実施。</p> <p>(1) 11月1日、「ユニバーサルデザインのまちづくり-公共施設、公共交通機関バリアフリー化を目指して-」をテーマとした対面式のシンポジウムを開催し、54人が参加した。また、収録した動画を12月1日から配信中。3月31日時点で360人のYouTubeアクセス数があった。</p> <p>(2) オンラインの集いとして、7事業所が活動紹介として収録した動画を12月1日から4か月間配信。555人のYouTubeアクセス数があった。また、授産製品を取扱う事業所の紹介動画を12月1日から4か月間配信。263人のYouTubeアクセス数があった。</p> <p>(3) 市役所正面玄関ロビーにおいて、活動の場の紹介として、12事業所の活動状況が分かるものを展示。事業所からは120人が参加した。</p> <p>○メンタルヘルスの問題を抱える家族や同僚など身近な人に対して、傾聴などによる予防や早期介入できる支援者を養成するため、こころサポーター養成講座を開催。令和5年度は422人が受講した。(令和4年度は620人)</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○障がい者週間記念事業については、引き続き委託している吹田市障がい者週間記念事業実行委員会と連携し、より多くの集客が見込める啓発行事の実施について検討する。また、学生ボランティアの参加を呼びかける等、より多くの方々に障がい者週間記念事業の啓発行事に参加してもらうことで、障がい者の活動の啓発を活性化させていく。障がい者当事者や関係者だけではなく、様々な方々に障がい者に関する取組を知ってもらえるように、関係室課と連携し、合同して啓発行事を行う企画を検討する。</p> <p>○こころサポーター養成講座については、令和6年度から障がい者相談支援センターに事業を委託する。継続して開催し、多くの方が受講することにより、精神疾患への偏見や差別を解消し、地域で安心して暮らせる社会の実現につなげていく。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	障がい者週間記念事業については、コロナ禍が一定の落ち着きを見せ、対面式のイベントを再開することができた。可能な限りの多様な啓発活動ができたことに伴い、昨年度よりも参加者数は多くなった。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
成年後見制度の認知度	36% (2019年度)	実績なし	実績なし	実績なし	実績なし	48%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。
 ※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ○吹田市成年後見制度利用促進体制整備検討会議を2回（令和4年度からの累計は5回）行い、最終回で権利擁護に関する地域連携ネットワークの中核となる機関（以下、「中核機関」という。）の体制整備に関する意見書の提出を受けた。 ○意見書の内容を踏まえ、中核機関の仕様を固め、業務委託に係る予算を確保した。
令和6年度以降の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> ○本市の中核機関である「吹田市権利擁護・成年後見支援センター（通称：けんりサポートすいた）」を7月1日に開設した。 ○権利擁護に関する制度や施策の情報共有並びに地域課題の検討を行ったり、中核機関の機能や運営について意見聴取する場である「吹田市権利擁護支援に係る地域連携ネットワーク協議会」を年2回行う。（第1回は7月30日に開催済、第2回は3月19日に開催予定。） ○この他、運営委員会等で中核機関の業務について御意見をいただきながら、権利擁護支援に係る地域連携ネットワークの構築を目指す。 ○成年後見制度の認知度向上に資する取組として、12月5日に中核機関主催の研修を実施。 ○次期地域福祉計画で、意見書の内容を踏まえ、中核機関設置後の権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けた機能について方向性を示す。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	スケジュールどおり、令和5年度中に中核機関の業務内容についての検討を終え、令和6年度当初に向けて業務委託契約の準備ができた。中核機関が開設され広報活動が行われることで、成年後見制度の認知度が向上するよう取組を進める。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向1：権利擁護の推進

具体的施策	1.高齢者や障がい者（児）等への理解の促進
	2.成年後見制度の利用促進（吹田市成年後見制度利用促進計画）【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
日常生活自立支援事業 利用者数	94人	88人	98人	94人	96人	110人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○令和5年度、新規契約者は14人（認知症高齢者等2人、知的障がい者等2人、精神障がい者等10人）であり、契約終了は12人（認知症高齢者等4人、知的障がい者等2人、精神障がい者等6人）であった。</p> <p>○契約終了の理由としては、「転居により他市の社協に移管」が2人、「成年後見制度に移行した」が6人、「本人死亡」が2人、「本人意思による解約」が2人となっている。ご本人の判断能力の低下など必要性のある方については、成年後見制度の利用に円滑に移行できるよう、支援も行っている。</p> <p>○令和6年3月末時点での待機者数は27人となっている。</p> <p>○有償の求人募集媒体に記事を掲載したことにより、生活支援員を2人採用することができ、欠員が解消された。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○引き続き、安定的な専門員・生活支援員の人員確保を目指すとともに、新規契約を増やし、待機者の解消を図れるよう支援する。</p> <p>○7月1日に開設した吹田市権利擁護・成年後見支援センター（通称「けんりサポートすいた」）と連携し、日常生活自立支援事業から成年後見制度へ、また成年後見制度から日常生活自立支援事業へのスムーズな移行を図れるように支援する。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	契約終了の数以上に新規契約を行うことができたため利用者数が増えたが、待機者の解消に向けて、担い手の確保や継続して働いていただくための支援のほか、対象者に合わせて支援内容の見直しを行う等の必要がある。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
地域包括支援センターの認知度	実績なし	36% (2019年度末)	実績なし	実績なし	38% (2022年度末)	50% (2025年度末)

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括支援センターの職員配置について三職種4名であった体制を令和5年度当初から5名の配置とした。 ○地域包括支援センターは多様なニーズに対応した総合相談支援を行うため、地域の行事等のあらゆる機会を通して地域包括支援センターの周知に努めた。 ○市としても要支援要介護認定の結果通知に地域包括支援センター一覧の同封や、市が実施する事業を通して地域包括支援センターの周知に努めた。
令和6年度以降の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> ○令和5年度までの取組について引き続き継続する。 ○毎年度、地域包括支援センター業務実施状況の評価を実施しており、継続して全地域包括支援センターが評価基準を満たすことを目標として、センターの機能強化と安定的な業務継続を図る。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	全ての地域包括支援センターが地域活動等のあらゆる機会を通じて地域包括支援センターの周知に取り組むことができた。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
吹田市社会福祉協議会の認知度	37.4% (2019年度)	実績なし	実績なし	実績なし	実施なし	60%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。
 ※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ○市報すいた特集記事令和5年11月号「ご近所同士みんなで支えあうまちをめざして～地区福祉委員会の取り組み～」にて吹田市社会福祉協議会の活動を紹介した。 ○令和5年度地域福祉市民フォーラム（会場及びオンラインの同時開催）にて、権利擁護支援と吹田市社会福祉協議会のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）との関わりを活動報告という形で周知した。 ○令和5年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにより活動紹介を行った。
令和6年度以降の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにてPRパネル（映像）や広報誌等の配布、ゲームコーナー、子育てサロンの体験コーナーの運営等を行った。 ○令和5年7月号の市報すいたにて吹田市社会福祉協議会に委託している吹田市権利擁護・成年後見支援センターの記事を掲載。 ○令和7年2月開催予定の地域福祉市民フォーラムにて、令和7年4月から重層的支援体制整備事業実施予定に伴い、各分野や多世代が交流する居場所にかかる活動の周知等を目的とした取組を、昨年同様吹田市社会福祉協議会と合同開催予定。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	夢のファミリーフェスタについては特設ブースへの来場者が想定以上に多く、大規模での周知につながった他、各業務については当初のスケジュールの通り進められている。引き続き、数値目標の達成に向け機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
コミュニティソーシャルワーカー (CSW)の(延べ)相談対応回数	1,825件	2,234件	2,248件	2,150件	1,682件	2,290件

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○CSWに相談があった場合、地域活動やボランティア活動を行う市民活動団体、他機関など専門機関と連携・協働して支援を行った。すぐに課題を解決できない場合であっても、相談対象者の不安に寄り添い、関係を閉ざさない支援に努めた。</p> <p>○OSSW(スクールソーシャルワーカー)との連携が進み、子育て中の親子に関する相談が増加傾向にある。一方で、高齢者や障がい者の相談は、地域包括支援センターや障がい者相談支援センターへ直接相談されることが多くなり、各相談支援機関の認知度の向上から全体の相談件数は前年度と比較して減少した。</p> <p>○令和6年3月に豊能・三島ブロックCSW連絡協議会を吹田市社会福祉協議会と合同で開催し、グループワークにより他市CSWの動きや課題等を学んだ。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○8050問題やひきこもり等、複雑化・複合化した課題を抱えた世帯への支援が多くなっているため、課題解決への支援だけではなく、孤立・孤独させないネットワークづくりを進めていく。</p> <p>○令和5年度に引き続き、令和6年度も吹田市社会福祉協議会ではCSWを対象に全5回の重層的支援体制整備事業に関する研修の実施を予定しており、包括的な相談支援体制の構築に向けてCSWとしての関わり等を学ぶこととしている。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	会議、研修等は計画どおり準備が進んでいる他、今後のCSWの役割について意見交換の場を設定できた。引き続き数値目標の達成に向け、ネットワークづくりを進めるとともに課題を抱えた人の掘り起こしや関係を閉ざさない支援を進めていく。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 危機管理室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
自主防災組織の結成数(連合自治会単位・単一自治会単位)	25団体・ 277団体	28団体・ 288団体	28団体・ 294団体	29団体・ 295団体	30団体・ 297団体	34団体・ 324団体

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○自主防災組織の結成促進のための事業として、本市では、連合単位で結成された自主防災組織への活動支援補助金と単一自治会単位で結成された自主防災組織への資機材給付を行っており、自主防災組織数は順調に増加していた。しかし、新型コロナウイルスのまん延に伴い、積極的に自主防災活動を行うことができない状況ではなかったことから、令和4年度以降、組織の結成数の推移は横這い、若しくは微増となった。ただ、感染症まん延下においても、自主防災組織間情報交換会の開催など、結成支援の動きを続けてきた。</p> <p>○令和5年度についても結成数は伸びなかったものの、自主防災活動は回復の兆しを見せ、新たな自主防災組織の結成についての相談が増えてきており、今後の結成数増加が期待できる。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○補助金及び資機材の給付については、これまで以上に様々な機会を捉えて周知するとともに、自主防災組織間情報交換会も全ての未結成地域の参加促進を行いながら、継続して開催する。</p> <p>○資機材給付の対象である単一自治会においては、本市に約560あります。これまでHPIに記載しているものの、それ以外の周知が少ない現状にあった。今後は情報交換会、市報の特集、出前講座、SNS等を使って広い範囲に事業の周知を図り、自主防災組織結成の意識が高まるような働きかけを個別に進めていく。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	目標の達成に向けた取組を進めている中で、組織結成に向けた動きが出てきている。地域防災を考えてくださる方の想いに応えられるよう、個別のサポートをこまめに徹底し、2026年度の目標達成を目指す。

基本目標2：総合的支援のネットワークの構築

施策の方向2：地域福祉のセーフティネットの拡充

具体的施策	1.包括的な相談支援体制の構築【重点施策】
	2.地域の安心・安全を支える体制の充実【重点施策】

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
災害時要援護者支援に関する協定締結地区数	6地区	10地区	11地区	11地区	12地区	34地区

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○災害時要援護者支援に関する協定締結に向け、協定未締結地区の自主防災組織や自治会に、災害時要援護者支援に関する取組の進め方についての協議・説明会等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年3月：千二地区 ・令和5年7月：東山田地区、竹見台地区 ・令和5年9月：吹三地区 ・令和5年10月：南山田地区 <p>○令和6年1月、「吹一・吹六地区」との協定を締結した。</p> <p>○令和6年2月、協定締結のある各地区連合自治会及び自主防災組織を対象に、災害時要援護者支援に係る取組の進め方や取組課題などを話し合う意見交換会を開催した。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○令和6年4月に「東山田地区」と協定を締結した。</p> <p>○令和6年6月に協定未締結地区である千二地区と協議を行った。</p> <p>○協定未締結地区に対しては、引き続き協議・説明会等を行い、災害時要援護者支援に関する取組についての理解向上と協定締結に向けて取り組む。</p> <p>○協定締結地区については、災害時要援護者名簿の活用方法や課題等についての意見交換会を行い、各地域との連携強化に取り組む。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	令和5年度は、新たに1地区と協定締結をすることができたほか、協定未締結の5地区と協議を進めることができた。 また、協定締結地区とは意見交換会を開催し、各地域との連携強化に取り組むことができた。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
民生委員・児童委員の人数	498人	494人	499人	500人	508人	551人

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ○民生委員・児童委員の担い手確保のため、民生委員・児童委員活動のPR（認知度向上）と活動環境の改善のため以下の内容に取組んだ。 ○夢のファミリーフェスタを4年ぶりに開催し、協議会のPR活動などを実施した。 ○4年ぶりに全地区にて学校長との懇談を行い、各学校等の子どもの様子や抱える課題について共有した。 ○高齢者見守りマニュアルの改訂を行い、委員が安心して活動できる環境の整備した。 ○子育て世帯向けのPRパネルを作成し、夢のファミリーフェスタや親子で遊ぼうなどの事業で掲示した。また主任児童委員のPRチラシを新たに作成し、各小学校の入学説明会にて配付した。 ○夢のファミリーフェスタなどの協議会が主催するイベントの際に、PR用ウェットティッシュを配付し、民生委員・児童委員について知ってもらうツールとして活用している。 ○民生委員・児童委員の活動環境を整備するために、オンライン会議等の導入などICT化の検討に取組んだ。 ○民生委員・児童委員の担い手確保のために、民生・児童委員協議会のホームページによる周知や啓発を実施した。
令和6年度以降の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> ○民生・児童委員協議会の効率的な運営や活動の負担軽減のため、オンライン会議等を導入し、ICT化を図る。 ○民生・児童委員協議会のICT化を図るため、地区委員長及び主任児童委員にタブレット端末を配付する。 ○民生・児童委員協議会のホームページの内容を拡充し、民生委員・児童委員とあまり接点のない若い世代が、担い手として自分が活動している姿を想像しやすいようなPRに努める。 ○令和5年度に続き、夢のファミリーフェスタなどの協議会が主催するイベントの際に、PR用ウェットティッシュを配付し、啓発に取組む。 ○来年度の一斉改選に向けて民生委員・児童委員の業務内容の整理やICT化を推進するなど負担軽減を図り担い手確保の取組を進める。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	民生委員・児童委員の担い手確保のため、市と協議会と連携し、PRと活動環境の改善に取組んだ。ホームページやイベントでのPRにより、令和4年度に比べて7名増員できた。ICT化に向けた検討を行うなど担い手確保の取組も進めることができた。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
単位高齢クラブ数	205クラブ	197クラブ	197クラブ	185クラブ	177クラブ	実績値の水準を維持

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○市内の各地区で結成する高齢クラブの単位クラブをもって吹田市高齢クラブ連合会を組織しており、各クラブ活動を強化し、明るく楽しい生活を送ることができるよう、高齢者の福祉を推進している。</p> <p>○団塊の世代が全て75歳以上となる2025年、さらに団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年、65歳以上人口のピークを迎える2050年を見据え、超高齢社会の地域のコミュニティ・見守り隊・外出支援の担い手・介護予防の推進活動隊として、高齢クラブが果たす役割はますます重要となっていくが、会員数が減少傾向にある。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○引き続き、高齢クラブの活動実態や高齢者のニーズを把握し、高齢クラブの加入・参加を促し、高齢クラブ活動の活性化を図る。</p> <p>○高齢クラブの維持・活性化に取り組んでいる吹田市高齢クラブ連合会に対し、高齢クラブへの助言の支援していく。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	C	C	高齢クラブでは、会長等の役員のなり手がなく休会や解散となっている状況にある。また、高齢クラブのPR不足により新規に加入する会員が少ないことも高齢クラブ数減少の要因となっている。連合会では、高齢クラブの新規会員拡大に向けた取組を実施しており、大阪府とともに本市は相談、助言の支援をしているが、高齢クラブ数の減少に歯止めがかからない状況となっている。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向1：地域福祉活動に関する支援

具体的施策	1.地域で活動する諸団体への支援
	2.社会福祉協議会等の活動支援

【所管】 福祉総務室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度	15.5% (2019年度)	実績なし	実績なし	実績なし	実績なし	30%

※令和7年度に実施する「吹田市民の地域福祉に関する実態調査」で実績値を把握する予定です。
 ※2018年度の実績がないため、2019年度の実績を参考値欄に記載しています。

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○市報すいた特集記事令和3年1月号「くらしをまもり、つながりづくり」にてCSWの活動を紹介した。また、令和5年11月号「ご近所同士みんなで支え合うまちをめざして～地区福祉委員会の取り組み～」にて地区福祉委員会の活動と併せてCSWを紹介した。</p> <p>○令和4年度地域福祉市民フォーラム（会場及びオンラインの同時開催）にて、吹田市社会福祉協議会の活動報告を行った。</p> <p>○令和5年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにより活動紹介を行った。</p> <p>○令和5年8月開催「吹田スタジアムフェスタ」にて福祉総務室と社会福祉協議会合同ブースを設立し、缶バッジ作成体験等を通してCSWの活動を紹介した。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○令和6年5月に開催された吹田市民生・児童委員協議会主催の「夢のファミリーフェスタ」に吹田市社会福祉協議会が協力し、特設ブースにてPRパネル（映像）や広報誌等の配布、ゲームコーナー、子育てサロンの体験コーナーの運営等を行った。</p> <p>○令和7年2月開催予定の地域福祉市民フォーラムにて、令和7年4月から重層的支援体制整備事業実施予定に伴い、各分野や多世代が交流する居場所にかかる活動の周知等を目的とした取組を、昨年同様吹田市社会福祉協議会と合同開催予定。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	夢のファミリーフェスタについては滞りなく開催できた他、吹田スタジアムフェスタでは普段関わる機会が少ない世代に対する活動のアプローチができた。引き続き、数値目標の達成に向け機会を捉えて広報・啓発活動に取り組む。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
ふれあい交流サロン設置数	6か所	8か所	8か所	11か所	12か所	12か所

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○ふれあい交流サロンについて、運営団体2団体の公募を行ったところ、2団体が新たに決定し、合計12か所の開設となった。
令和6年度以降の取組予定	○円滑な運営を行えるよう、引き続き支援する。 また、介護予防の取組を実施するよう、引き続き働きかけを行う。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	A	目標となる設置数を達成することができたため。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】 青少年室

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
こどもプラザ事業実施回数	1,992回	725回	516回	1,805回	1,869回	2,400回

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○本事業は学校及び地域の方々の協力を得ながら実施しており、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から実施できない小学校があったが、令和5年度は全36小学校で1,869回実施することができた。</p> <p>○平成30年度（コロナ禍前）の1,992回実施には及ばなかったが、令和2年度（コロナ禍）以降、実施校、実施回数は少しずつ増加している。</p> <p>○占用教室の有無や見守りボランティアの人数の確保などが36小学校それぞれで異なる中で、実施回数には差があるが、安全で安心な貴重な居場所として、引き続き継続できるように、見守りボランティア（フレンド）の養成と活動場所の確保に努めていく。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○地域での運営が難しい2校の「太陽の広場」を、モデル事業として民間に委託して実施し、今後、持続可能な事業となるよう運営方法を検証をしていく。</p> <p>○地域の見守りボランティア（フレンド）の確保のため、昨年度同様、大学への協力依頼に加え、地域の方が気軽にボランティアとして登録できるよう電子申込システムを活用する。</p> <p>○さらに、地域の方がボランティア活動に関わりやすくするために、青少年指導者講習会のカリキュラムに、救急法やゲームなどの講座を取り入れて、太陽の広場も含めた地域のボランティアの養成にも努めていく。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	C	B	実施回数に地域差はあるものの、総実施回数は、少しずつ増加している。 引き続き、見守りボランティア（フレンド）の確保に取り組む。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向2：交流の場、活動拠点の整備

具体的施策	1.みんなの居場所づくり
	2.地域福祉活動の拠点の整備

【所管】 総合福祉会館

1 評価指標

指標	参考値	実績値				目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
貸館の延べ使用件数（総合福祉会館）	3,665件	1,755件	1,694件	2,182件	2,679件	4,190件

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○新型コロナウイルス感染症により貸館の利用を制限していたが、2類感染症から5類への移行に伴い、一部を除いて人数制限等を通常に戻し、再開した。</p> <p>これに伴い、利用件数も増加してきている。</p> <p>○しかし、他部署への提供が続いており、目標値への達成は難しいと思われる。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○他部署への貸室のうち、第1会議室は5月1日から、貸室が再開。また、他の室へ貸出して利用していた集会所も撤退することにより、団体への貸室が再開予定である。新型コロナウイルス感染症前に利用していた団体へも使い慣れた集会所への案内をすることにより、利用増が見込まれる。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	C	B	新型コロナウイルス感染症が第5類になり、6月以降はコロナ前の人数に戻し貸室利用が増えていった。しかし、依然、他部署への提供が続いていたため、コロナ前の利用件数までには至っていない。令和6年度は他部署への提供が減る分、増加傾向が見込まれる。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 高齢福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)	
地域密着型サービスの整備箇所数 ①小規模多機能型居宅介護 ②看護小規模多機能型居宅介護 ③定期巡回・随時対応型訪問介護 看護 ④認知症高齢者グループホーム ⑤小規模特別養護老人ホーム	①8か所 ②1か所 ③2か所 ④17か所 ⑤6か所	①8か所 ②2か所 ③2か所 ④19か所 ⑤8か所	①9か所 ②2か所 ③2か所 ④20か所 ⑤9か所	①9か所 ②2か所 ③3か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②2か所 ③3か所 ④21か所 ⑤10か所	①9か所 ②3か所 ③4か所 ④22か所 ⑤10か所	

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○第8期吹田健やか年輪プランに基づき、令和3年度から令和5年度までの間に、定期巡回・随時対応型訪問介護看護1か所、認知症高齢者グループホーム2か所、小規模特別養護老人ホーム2か所及び小規模多機能型居宅介護1か所の整備事業者を選定した。 ○第8期吹田健やか年輪プランにて見込んでいた、看護小規模多機能型居宅介護1か所の整備事業者を選定できなかった。
令和6年度以降の取組予定	○令和6年度からの第9期吹田健やか年輪プランに基づき、認知症高齢者グループホーム1か所、看護小規模多機能型居宅介護1か所及び定期巡回・随時対応型訪問介護看護1か所の整備事業者を選定する。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	B	第8期吹田健やか年輪プランで定めた地域密着型サービスの必要整備数について、概ね、整備事業者が選定されており、整備が進んだため。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 障がい福祉室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)	
障がい福祉サービスの利用者数等 ①ホームヘルプなど訪問系サービスの利用者数(月平均) ②グループホームの利用者数(月平均) ③移動支援事業の利用者数(月平均) ④就労継続支援B型事業所における 工賃平均月額	①1,089人 ②355人 ③1,078人 ④13,113円	①1,377人 ②422人 ③930人 ④14,859円	①1,463人 ②444人 ③927人 ④15,259円	①1,548人 ②468人 ③983人 ④15,422円	①1,641人 ②535人 ③1,005人 ④大阪府調査結果待ち	①1,863人 ②575人 ③1,181人 ④17,219円	

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	○令和5年5月にコロナウイルス感染症が5類に移行された後においても、事業所が安定して障がい福祉サービスの提供ができるよう、事業所のかかり増し経費について補助金を支給し支援することができた。また、PCR検査費用の助成や抗原検査キットの配布についても、必要に応じて対応できるよう事業の準備を行った。
令和6年度以降の取組予定	○コロナウイルス感染症が5類に移行された後においても、安定して障がい福祉サービスの提供ができるよう、事業所を支援できる必要な施策について、事業所とは逐次情報を共有し、また国や他市の動向を注視しながら検証を行っていく。

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	コロナ禍の状況に対して、事業所のかかり増し経費について補助金を支給し支援することができた。事業所が安定して障がい福祉サービスを提供できた結果、訪問系サービス、グループホーム、移動支援事業の利用者数は、昨年度より増加した。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 放課後子ども育成室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)	
留守家庭児童育成室入室児童数	3,506人	4,131人	4,413人	4,688人	4,962人	5,000人	

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○放課後の児童に安心・安全な居場所として留守家庭児童育成室を開設している。</p> <p>○留守家庭児童育成室の入室希望児童が大幅に増加している状況を踏まえ、小学校の協力を得ながら必要な施設の確保を進めた。また、指導員の欠員を解消するため、人材派遣サービス活用等により指導員の確保を行い、令和5年4月から指導員の初任給の報酬を6号給引き上げ、指導員の処遇改善を図った。加えて、令和6年度から運営業務を委託する2か所の留守家庭児童育成室において、委託事業者を選定するとともに、令和7年度から委託する留守家庭児童育成室を4か所とすることを決定し、取組を加速化した。また、国の交付金を活用して、運営業務を委託している留守家庭児童育成室において、放課後児童支援員等処遇改善事業を実施し、留守家庭児童育成室の待機児童が放課後に安全で安心して過ごすことができる放課後キッズスクエアを開設した。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○留守家庭児童育成室において、増加している入室児童を受け入れるために、引き続き必要な施設の確保や指導員の確保、民間事業者への運営業務の委託等必要な取組を進める。また、待機児童が生じる育成室において、学校内の教室やグラウンド等を活用し、児童が安全に放課後を過ごすことができる放課後キッズスクエアを開設する。</p>

3 評価

【評価】欄について

A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	放課後の児童に安心・安全な居場所を提供できており、必要な施設の確保を進めた一方で、指導員の確保については、47名の欠員が生じており、入室希望児童の受入れに必要な指導員の確保ができず、待機児童を発生させているため。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 健康まちづくり室

1 評価指標

指標	参考値		実績値			目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)
生活習慣改善するつもりはない人の割合	男性28.8% 女性21.5%	男性28.9% 女性20.3%	男性28.2% 女性20.8%	男性：28.4% 女性：20.4%	男性：27.4% 女性：20.4%	男性25.0% 女性17.0%

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<ul style="list-style-type: none"> ○指定管理者による健都レールサイド公園及び健都ライブラリーの一体的な管理運営を通して、多様な健康づくりプログラム等を年間1,529回提供した。 ○令和3年度から運用開始している健都ヘルスサポーター制度について、イベントなどでの周知により会員数は2,000人を超えた。 ○令和5年3月に運用開始した親子健康応援アプリについて、機能の追加を行った。 ○市内の大学と連携し、イントラネットを活用した情報発信を年間19回実施した。
令和6年度以降の取組予定	<ul style="list-style-type: none"> ○健康すいた21(第3次)の目標達成に向け、懇談会を年3回開催し、取組の中間評価を行う。 ○健都レールサイド公園及び健都ライブラリーの令和7年度以降の指定管理者を公募する。 ○市民が知りたい健康・医療情報にアクセスしやすいよう、ホームページのカテゴリーを見直すとともに、特色ある取組をまとめたページを作成する。

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	地域団体、企業、研究機関等、多様な主体との連携により、取組は着実に進んでいる。 指標の目標値の達成に向け、引き続き、くらしにとけこむ健康づくりを推進する。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 学校教育室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)	
各中学校ブロックにスクールソーシャルワーカーを配置した時間数	8,469時間	15,488時間	15,355時間	15,219時間	15,147時間	15,738時間	

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○全18中学校ブロック（小学校2校・中学校1校が16ブロック、小学校1校・中学校1校が1ブロック、小学校3校・中学校1校が1ブロック）に週20時間をベースとしてSSW（スクールソーシャルワーカー）を配置し、いじめや不登校、虐待等について福祉の専門家として関わり、各校で週1回開かれるコア会議や生徒指導委員会に参画するとともに、必要に応じて個別のケース会議にも参画し、助言や環境への働きかけ・関係機関との連携・ネットワークの構築など多様な支援を行った。</p> <p>○SSWの支援により課題が解決もしくは好転した児童・生徒の割合は80%となった。</p> <p>○全18中学校ブロックすべてにSSWを配置できているが、安定的な雇用や人材確保、長期的な人材育成に課題がある。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○毎月1回SSWが集まる連絡会を開催し、そこに関係機関も参画できるようにすることによって、関係機関と交流する場を充実させるとともに、研修会への積極的な参加を促すことでスクールソーシャルワーカーの資質・能力の向上を目指す。</p> <p>○経験の浅いSSWがOJTで学び、いつでも気軽に相談できるようSSWのSVやチーフを活用し、安心して働ける環境を整備する。</p> <p>○SSWの雇用条件や労働環境の改善に向けた働きかけを進める。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	目標配置時間数の96.2%に迫れているが、昨年度よりも数値が下がったため。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 道路室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)	
移動経路のバリアフリー化率 (整備済延長/全延長×100)	52.90%	76.60%	81.80%	90.80%	91.90%	100%	

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○市域において、バリアフリー法等に基づき、バリアフリー基本構想が策定され、高齢者、障がい者等の移動等の円滑化を推進しています。整備内容は、歩道及び車道等との段差・勾配の解消、バリアフリーに配慮した路面舗装、視覚障がい者誘導用タイルの設置等を行います。</p> <p>○令和5年度は江坂町56号線の整備を実施しました。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○引き続き、経路に指定されている路線のバリアフリー整備を実施していきます。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	大阪府の事業や開発事業の影響で整備時期が未定の路線がありますが、それ以外の路線については、令和6年度で整備が完了します。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 地域経済振興室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)	
JOBナビすいたの利用者数	5,050人	3,602人	2,561人	3,134人	3,587人	実績値の水準を維持	

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○令和5年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、対面での就職相談や職業紹介を利用する求職者が回復したことや、様々なセミナーや面接会を実施することで、利用者の増加に繋がった。</p> <p>○求職者のニーズを把握し、より効果的なセミナーや面接会を実施していくことが課題である。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○有効求人倍率はゆるやかに回復しているものの、就職困難者は様々な阻害要因を抱えているため、今後もきめ細やかな相談体制を確保し、個々の求職者に応じた就労支援を実施していきたい。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	A	A	定期的なセミナーや面接会の開催によって、利用者数が増加した。

基本目標3：地域福祉活動推進の基盤整備

施策の方向3：暮らしと健康を支える福祉サービスの充実

具体的施策	1.福祉や子供・子育てに関する制度の充実	4.誰もが暮らしやすい生活環境の形成
	2.健康づくりの推進と地域医療体制の充実	5.就労と働きやすい環境づくりへの支援
	3.青少年の健全育成	

【所管】 地域経済振興室

1 評価指標

指標	参考値	実績値					目標値
	2018年度 (平成30年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2026年度 (令和8年度)	
「障がい者就職応援フェアInすいた」への参加者数	75人	46人	27人	32人	16人	実績値の水準を維持	

2 取組の進捗状況

令和5年度末までの取組状況 (進捗、成果、課題等)	<p>○ハローワーク淀川及び商工会議所と連携し、「障がい者就職応援フェアInすいた」を開催した。</p> <p>○例年と同規模・同時期で実施したが、前年と比較し参加者数が減少となり、広報面等の強化が課題である。</p>
令和6年度以降の取組予定	<p>○令和6年度は11月28日に開催予定。</p> <p>○共催しているハローワーク淀川及び商工会議所と密な連携を図り、実施内容（参加方法、広報面等）を改善し、参加者数の増加に努めたい。</p>

3 評価

【評価】欄について

- A：目標達成に向けた取組は、順調に進んでいる B：目標達成に向けた取組は、概ね進んでいる
 C：目標達成に向けた取組があまり進んでいない D：目標達成に向けた取組がほとんど進んでいない、または未着手

年度	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	評価の理由等
評価	B	B	参加者数は減少となったが、一定の参加者数は確保できているため。